

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部)― コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部)― 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部)―

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 前期課程については、専門性を特化させた研究を行い、質の高い修士論文の作成を指導する。	→修士論文の完成度、提出状況、学生の進路、修士論文の査読評価。	A
2. 後期課程については、優れた研究成果を携えた博士学位の取得者を安定的かつ継続的に輩出できるように指導する。	→領域ごとの博士学位論文授与数、博士論文計画書、予備論文、博士論文提出までの経過年月、審査結果、授与者の進路調査結果。	B
3. 学位論文作成能力を養成するために研究の進捗状況に応じて段階的な指導体制を整備する。	→「研究演習」における学位論文計画および「博士論文作成演習」における予備論文の学術的達成度の評価。	B
4. 専門分野の高度化および隣接分野との学際化に対応したカリキュラムを継続的に運営する。	→大学院生の多様なニーズに対応しているかどうかについての毎年の調査結果。	B
5. 教育成果としての大学院生・大学院研究員による学会発表、学会誌への論文投稿、研修への参加などを活発化する。	→日本学術振興会特別研究員への申請数、学内奨励金制度への申請数、その他の研究奨励金などへの申請数と採択状況。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

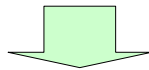
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(方針) 前期課程の科目は、必須科目、選択科目、研究演習を設け教育課程を体系的に編成する。 (現状説明) 大学院教育課程の体系化した編成の成果は、修士学位と博士学位の授与状況に示されるが、修士学位の授与率は良好である。博士学位の授与状況も定着化している。研究科委員会、領域代表者会議を定期的で開催し、カリキュラムの適切性を検討している。前期課程、後期課程ともにWeb上シラバスで全科目を公表している。
☆ 小項目6.2.2	文学研究科では、高度専門家の養成と幅広い知識を身につけ人間性豊かな人材の育成を目指しているが、3専攻12領域(後期課程は11領域)の科目構成は十分に検討されたものであり、前期課程学生の高度専門家専門職業人としての養成は順調に進んでいる。後期課程学生の場合は、研究が主体の教育課程を組んでおり、博士学位の安定的かつ継続的に排出することが最大の目標であり、2005年度以降、毎年10名を超える課程博士を輩出している。
☆ その他	社会で活躍している当該領域の修了生による講話コースを設けている領域があるが、専門家養成の一環として有効である。

## ◎効果が上がっている事項

## 【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	多彩な科目の提供。後期課程では「特別研究」科目設置による柔軟な個別指導。
★小項目6.2.2	Web上のシラバスで全科目いつでもどこでも内容を閲覧できるため、15回分の講義の課題が明らかとなり、科目構成の適切性を判断するうえで効率的である。大学院生には、Web上ではなく、指導教員と履修内容を相談し、認印を得たうえで個別に紙媒体の履修登録を提出させている。指導教員は学位論文の進捗状況も確認している。
その他	



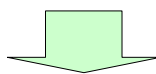
## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	上記の手続きの進展を図る。
★小項目6.2.2	大学院の高度に専門的な学問領域の教育課程を把握するためには、全カリキュラムを詳細な冊子体で提供することも必要である。科目名・講義概要・講師名を概観できないために2009年度から専攻と領域の学術的な内容を把握することが困難である。早急に改善を要する。
その他	特になし。

## ◎改善すべき事項

## 【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	特になし。
★小項目6.2.2	廃止された紙媒体の詳細な大学院要覧または学術性の高さを表明した案内書の作成が必要ではないだろうか。大学院案内にある当研究科はわずか2ページに縮小され、字が微細で読みにくいいため、現状の改善が全学ベースで必要である。
その他	特になし。



## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	特になし。
★小項目6.2.2	上記の課題を大学院問題検討委員会、教務学生委員会で検討する。
その他	特になし。

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】  
なし

【学内委員】

- この項目に限らず、教育上の諸問題に対して具体的で目配りの利いた記述がなされていて、真摯な姿勢は高く評価できます。
- 改善すべき事項6.2.2に指摘されている問題の早急な解決が望まれます。
- 2009年度に策定された目標の達成に向けた施策が概ね実行されつつあることが窺えます。引き続き目標の達成に対する努力が続けられることが期待されます。
- 学際的分野が多くなっていると考えられるので、その対応が望まれます。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

**V. 本項目の評価指標**

## &lt;全学的な指標&gt;

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

## &lt;個別的な指標&gt;
